
優しく世界を転ばせます

ぽん太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

優しく世界を転ばせます

【Zコード】

Z5417BA

【作者名】

ぽん太

【あらすじ】

ヒーローと悪の秘密結社の戦いによる煽りを食いつまわかの解雇。

再就職先は悪の秘密結社！？

そんなOの o 話。

プロローグ

私の住んでいる街にはヒーローが居る。まあ、子供騙しみたいなアレだ。長つたらしい变身シーンに、大人の事情やその他諸々が詰め込まれたピツチリタイツに滑稽な戦闘。現実世界にもご都合主義というものが持ち込まれ、悪の秘密結社なんてものまで存在している。お陰でこの街の建造物は数日あきに壊れるわ、大騒動が起ころうで迷惑極まりない。私たちが支払う税金は全て修理費へ消費してしまう。この不況でそんな所に金を湯水のように使えるわけもなく、煽りを食らつてまさかの解雇通告。晴れてフリーターなるレッテルを張られた身としては非常に腹が立つわけで。ああ、でも一つだけ朗報がある。次の仕事先が信じられない早さで決まった。給料は良いし、待遇も問題なし。文句なし……と言いたいところだが、まあそこは現実だ。一つだけ問題があつたりする。

安藤琴音、二十五歳。現在の仕事先は悪の秘密結社です。

憐れんだような視線を受けながら、五年間働いた会社を後にする。異様にむしゃくしゃして、誰構わず怒鳴り散らしたくなつた。しかも、あらゆる道はつい三日前のヒーローと悪の秘密結社との馬鹿げた争いのせいでボロボロ。穴のあいた道にヒールを取られながらも、どうにか通いなれた駅までの道を進む。

世の中は不平等だ。ヒーローだの悪の秘密結社だのはじ都合主義で固められているというのに、私はどうだ。別に世の中のためになるようなことをしているわけじゃないが、かといって犯罪なんてものをしようとも思わない。平穏な人生を過ごしたいと願う一般市民に対して、何て仕打ちだろうか。あのご都合主義共が争うたびに、何かを失うのは私たち一般市民。そのくせニユースではヒーローが神様のように崇められる。この街ではありえないが、他の街ではここに居るヒーローはとんでもない人気を誇っているのだ。

あんなピチチリ全身タイツを着た男やら、あからさまにイタい女たちのどこが良いというのだろうか。日々街を壊し続ける破壊者が、創造主たる神のように崇められるだと？　ちゃんとちやらおかしいわ。心中で愚痴を吐き出しつつ角を曲がれば、眩暈がした。まさに、私の解雇の原因であり、苛立ちの原因がこちらを背に立つていたのだ。百歩譲つて私服だつたら、私は見ないふりをしただろう。だが、目の前にいたのは全身タイツ姿。何やら長つたらしい口上を叫んでいるが、頭には入つてこない。悪の秘密結社の一員であろうメンバ－は黙つてそれを聞いているだけ。指揮者らしきマッチョのおじさんも不敵な笑みを浮かべているだけで、何もしない。苛立ちの原因が目の前にいて、しかも油断している。そんな状況に立たされれば誰しもやりたくなるだろう。今日はいつものタイトスカートではなく、私物整理があつたためにズボンを穿いてきている。そして足には高いピンヒール。神は産まれて初めて私に微笑んだ。

「「」の糞どもが！」

赤タイツ男^{コーダー}の背中を蹴るといつよりヒールで突き刺すように全体重と気持ちを籠めた一撃をお見舞いする。完全に油断していたのだろう、気持ち悪い悲鳴と共に地面をのた打ち回っている。驚いたようにならぬ青タイツ（かなりヒョロイ）男がこちらを振り返るので、今度は腹に一撃。茫然として動かないマツチヨのおじさんを思わず怒鳴りつける。

「さつさと畳み掛ける。やれ！」

理性だとか、正義感だとかはない。ただ私にとつての敵を排除することしか考えていないかった。マツチヨのおじさんより、周りの部下の方が反応は早かつた。のた打ち回っている赤タイツと声さえ上げずに悶絶している青タイツは放置。残っているちょっぴり太った黄色タイツと標準体型の緑タイツ、そしてイタいピンクタイツ女を囲む。戸惑つたように軽い攻撃しか与えないので、思わずまた足が出てしまつ。問答無用で黄色タイツの突き出た腹にヒールを食いこませた瞬間、何とも言えない感覚が脳髄まで走つた。柔らかい肉に、ヒールが突きささる感覚。自らの敵を排除している快感。

「もう一度言う。やれ」

上がつた口角に、自分の声かと疑うぐらいの重低音。ビクつく男共を見るたびに、心が満たされる。きっと悪役たちは今やらねば次にやられるのは自分だと気付いたのだろう。急に攻撃に戸惑いや手加減が無くなつた。

自分の敵が上げる情けない悲鳴。心がスッと軽くなり、気付けば鼻歌まで歌つていた。そんな私に声をかけたのはマツチヨのおじさん。彼は地獄絵図の中で、私以外で唯一平然としていた。

「お前さん、ちょっと面白いことせんか？」

にっこり笑つたおじさんは、とても楽しそうだった。

その後、私は秘密結社の参謀役として正式に就職した。何故こんなことになったのか。あのときの自分がやり過ぎたからだろうとは思うのだが、まったく後悔も反省もするつもりはない。結果として

就職先は決まりたし、憂鬱な晴らしも出来た。一石二鳥の出来事であったのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5417ba/>

優しく世界を転ばせます

2012年1月14日22時52分発行